

Bonjour

ボンジュール!!

2014年
5月22日号

Vol.160



嵐の前の静けさか? ~ドル・円市場~

● 静か過ぎるドル・円、米国債市場

ドル・円の変動率が過去最低を更新しました。加えて、主要資産の値動きも小さくなっています。今週月曜日、米ダラス連銀総裁も市場にボラティリティがみられないことに懸念を表明しています。「嵐の前の静けさ」と注目が集まっています。

ドル・円相場は昨年から一変、1ドル101円台から105円台の比較的狭い範囲での上下が続いており、1ヵ月物の予想変動率は史上最低値を今月更新しました。

米国国債市場では、米量的金融緩和の規模縮小が開始したため、年初の時点では今年も金利上昇が続くと見られていました。しかし蓋を空けてみると、10年国債の利回りは2.5%から2.8%の間での小幅な動きを繰り返しており、3ヵ月変動率がリーマン・ショック以降の最低水準にまで迫っています。

● 過去、やはり嵐が吹いた!

通常、変動率が低ければ、市場参加者はあまり不安を抱えていないと考えられます。しかし、市場に永遠はありません。むしろ、安定局面が長期化するほど、その後の急激な相場調整への警戒感が高まります。

実際に、ドル・円相場は、120円台にあった2007年6月に1ヵ月変動率が急低下した直後、円高方向に転換し、その9ヵ月後には

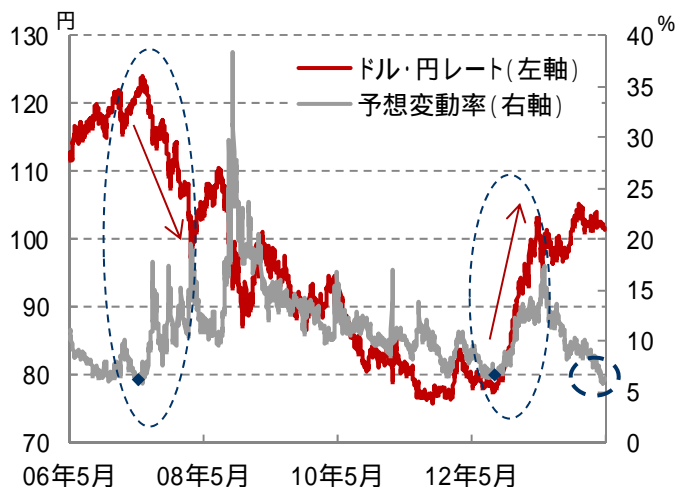
100円を割り込む水準まで円高が進みました。一方、前回1ヵ月変動率が低水準となった2012年9月には政権交代をきっかけにその後一気に円安が進みました。

● 嵐の前の静けさ

さて、冒頭のダラス連銀総裁ですが、先月は超緩和的な金融政策を背景に投資家が過剰にリスクを取っている可能性を指摘し、ハイールド債市場で投機的な動きが高まることを懸念しています。

果たして、どちらに動き出すのか、各資産で要注目です。

ドル・円相場の1ヵ月物予想変動率の推移
(日次、期間:2006年5月22日~2014年5月21日)



出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。